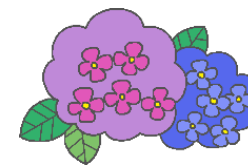


## 学校教育目標

- 〈徳〉 やさしく～夢を持ち続ける子の育成
- 〈知〉 ただしく～自ら進んで学ぶ子の育成
- 〈体〉 たくましく～最後までやりとげる子の育成



## 道徳の授業参観と、教師の心理教育と解離の理解

校長 高橋 秀 壽

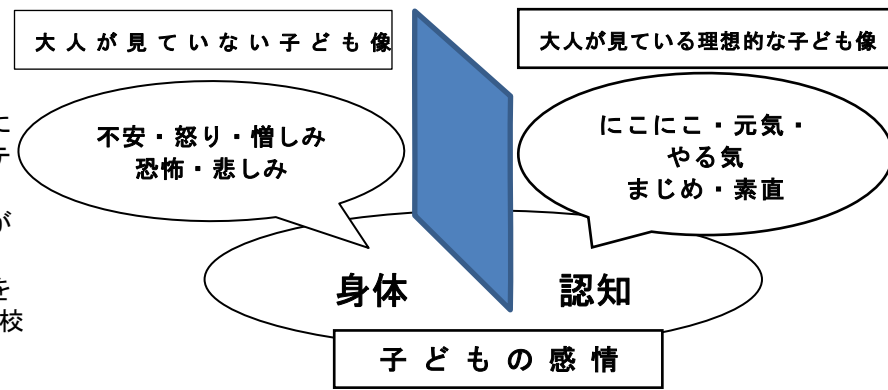
本校の道徳授業研究、区切りの3年目となります。全員の授業をバウムハウス職員の皆様にも参観いただいています。職員には、「拡散と収束」の繰り返しと「短調、長調と転調」を意識した授業を行って下さいと話しています。「拡散」は教師側からすると説明、発問や指示であり、子供側からすると思考や意識の広がり、発言・発表でしょう。「収束」は教師側では思考の深まりやまとめになります。子供側では理解、納得や定着になります。音楽的な言い方をしましたが、「短調」とは暗い様子ですね。そのような授業はつまらないです。「長調」つまりは明るさのある授業は子供の意欲化に繋がります。そして、「転調」は短調から長調への相互変化等ですね。この組み合わせが授業をダイナミズムなものにします。そういう授業は面白く、楽しいです。そして、「令和の日本型学校教育」で求められる「個別最適な学び」と「協働的な学び」を組み入れます。特に、「個別最適な学び」では、教師はティーチングからコーチングへ、子供が学習の主体者となる授業にしていくことです。「主体的・対話的で深い学び」による授業の更新や改善を通して、子供に育むべき資質・能力を身につけさせていくことが帰着点になります。道徳の授業では思考や意見をタブレットに書かせますが、時間がかかります。教師と子供が不慣れなので深い学びである「収束」に形を変えるところまでに至っていないこともあります。タブレットの使用が授業の目的ではなく、定規やコンパスのようなツールにしなければなりません。

さて、バウムハウス木本施設長から資料を頂きました。大約をご紹介します。『小学校における「きれの子」への理解と援助—教師のための心理教育という観点から』—東京学芸大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 大河原美以氏の論文からです。【きれの子への理解の仕方】から(3)心的外傷を受けた子どもの心の中はどうなっているのですか？ そもそも、子どもは「嬉しい」「悲しい」「怒り」といった感情を表す言葉をどうやって学ぶのでしょうか。例えば、幼い子どもはブランコを押してもらって嬉しくわくわくするその身体のエネルギーに包まれている時に、「嬉しかったね」「楽しかったね」と言ってもらうことを通して、自分の身体の感覚としての体験を「嬉しい」「楽しい」と表現するということを学びます。大好きなおもちゃを取られてしまって、地団駄踏んで大泣きしている幼児は「悔しかったね」と言ってもらうことを通して、身体から溢れてくるどうしようもないエネルギーを「悔しい」という言葉で表現することを学びます。「感情」を表す言葉を学習するということは、子どもが身体で感じている漠然としたエネルギーに大人が適切な「名前(言葉)」をつけてくれることを必要とするのです。つまり、感情の動きや感覚を言葉に置き換えることを学ぶのです。何らかの理由で、身体の感覚としての安全感・安心感が保障されない環境で育つと子どもの本能は身を守るために原始的な防衛機制を働かせます。それにより、危険な身体の感覚は感じないように壁を作り、認知(あたま)を働かせて大人に適応する方法を学びます。大人が見たくない、見ようとしなない、子どもがもっているとは思っていない不安や怒りや憎しみや恐怖や悲しみといったネガティブな感情を無いものにする壁が発達するのです。この壁というイメージは、専門的には「解離」という現象を指しています。幼児タイプの子どもは、おうちでは

「よい子」であったり、怖い先生の言うことは聞けるけれど、優しい先生の前では暴君になったりします。極端な2面性(多面性)を見せるということが特徴です。このような状態像は、教師を苛立たせる条件を揃えているわけです。「やればできるのにやらない」「優しくすると舐められる」「大人の顔を見て使い分けている」「親にもっと叩かれているから、このくらいではこたえない」という印象を与えがちです。そのために、厳しい指導により行動の改善を求める方法がとられがちになるのです。ところが、強い力で恐怖を与えて言うことをきかせることは、一層壁を高く厚くしていくことを促すばかりという悪循環に陥ることになります。壁が低くなるためには、大人が子どもにもって欲しいと思わないネガティブな感情をポジティブな感情と同じくらい大事なものとして承認し、注目してあげることが必要です。ネガティブな感情をもっていても大丈夫だと大人から承認されることで、子どもは心の中にそれらの感情の居場所を作ることができます。居場所を与えられた感情は、言葉と結びつくことを通して暴走しないようになるのです。

私が首肯した個所は、感情の働きを言葉に変換することでした。この気持ちは何だというところの答えを言語化することが論理的思考の淵源となると感じました。家庭で幼児を育てる上での勘所と思います。学校ではこの壁を低くすることを視野に入れた教育が大事と考えます。

### 解離する子どものイメージ図



# 小・中合同体育を実施しました！

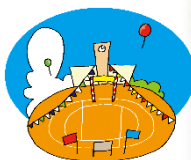
# 7月行事予定

6月3日（木）に小・中合同体育を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言を受けて、従来の「運動会」ではなく、体育の授業として「小・中合同体育」を実施しました。残念ながら保護者の方による参観は実現できませんでしたが、バウムハウスの職員に見守られながら、子供たちは精一杯の力を発揮しました。

当初は4日（金）に実施の予定でしたが、天気予報によると4日は大雨の予報。しかもかなりの雨量となる見込みでした。雨天の場合は体育館での実施も計画していましたが、子供たちにはグラウンドで伸び伸びと活動させたい思惑もあり、予定を1日早めて、3日に行いました。当日は晴れ間もあり、好条件の中で実施することができました。

徒競走やよさこい、大玉転がしなど、競技数を厳選しての実施でしたが、みんなの真剣な表情がたくさん見られ、とても有意義な合同体育となりました。

応援に来てくださったバウムハウスの皆様、ありがとうございました。



## 1人1台端末:Chromebook(クロームブック)を使っての授業



文部科学省による「GIGA スクール構想」推進のもと、今年度から「1人1台端末」を活用した新しい学びがスタートしました。本校でも端末であるChromebook(クロームブック)を使用した授業に取り組んでいます。最初にルールを確認し、調べもの学習やアプリにある問題を解いたり、道徳科では自分の考えをまとめたりなど、その教科に応じた使い方を模索しながら進めています。

- 1日（木）修学旅行（小）
- 2日（金）修学旅行（小）  
校外学習（小） 定時退勤日
- 5日（月）個別の指導計画交流
- 6日（火）研修日
- 7日（水）修学旅行（中）
- 8日（木）修学旅行（中）  
伊達高等養護見学
- 9日（金）修学旅行（中）  
伊達開来高校見学
- 12日（月）実務者会議 校務部会
- 13日（火）放課後学習会（中）
- 14日（水）定期テスト  
放課後学習会（中）
- 15日（木）定期テスト  
BASE会議
- 16日（金）尿・ピロリ菌検査（3次）  
月行事調整委員会  
定時退勤日
- 19日（月）中部会 定例校長会議
- 20日（火）ASOBIBA 定例教頭会議
- 21日（水）小部会 校外学習（北黄金貝塚）
- 26日（月）1学期終業式 大掃除  
職員会議
- 27日（火）夏季休業～8/17（火）まで